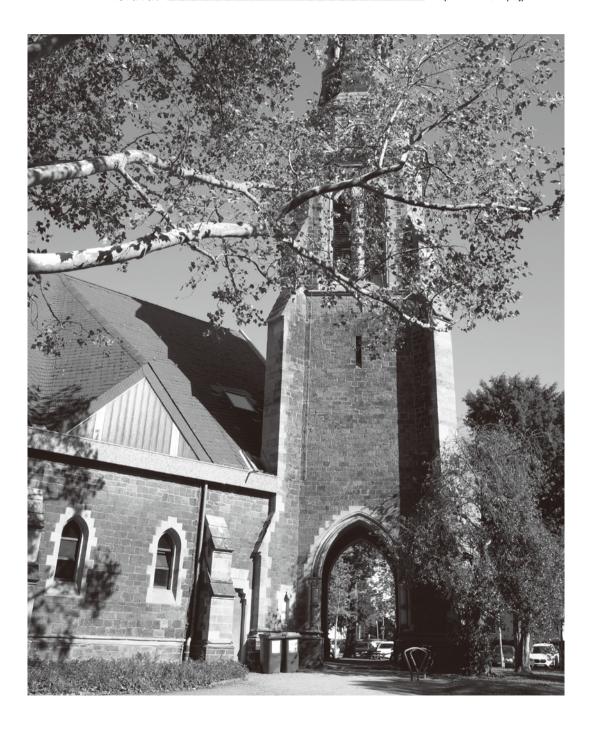
一般社団法人 日本新聞製作技術懇話会 会報(隔月刊) VOL.46 No.5 2022.9.1 (通巻 275 号) 禁転載

CONPT

Conference for Newspaper Production Technique-Japan

広報委員会編集

編集人 下平 泰生 東京都千代田区内幸町 日本プレスセンタービル 8階(〒 100-0011) 電話(03)3503-3829 FAX(03)3503-3828 http://www.conpt.jp



目次

新聞製作技術の軌跡(第28回)網	総集編	8	売売新聞社	ОВ	深田	一弘		3
新局長に就任して	北海	道新聞社 執	行役員制作	局長	村上	孝志		7
	岩手日報社	執行役員総	合メディア	局長	佐藤	晋		8
		中日新聞北陸	本社 技術	局長	三品	敦		9
新聞メディアの潮流 欧州報行	告 (5)	在英	ジャーナリ	スト	小林	恭子		10
付・エリ	ザベス女王死	と去の紙面を	をみる ・	•••••	•••••			12
楽事万歳		河北新	報社 技術	局長	大江	秀則		13
第127回技術懇談会 椿本チエ	イン埼玉コ	□場を見る	学	•••••	•••••	•••••	•••••	14
美味あっちこっち		DIC	グラフィッ	クス	石井	靖		15
新聞技術賞 新聞製作講座 …			•••••	•••••	•••••		•••••	16
わが職場あれこれ	パンメディアプリ	ンテック関西	統括部長	補佐	中野	聖士		17
新入会のことば			フジオー	産業	平本	敬三		17
会員名簿		••••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	•••••			18

[●]表紙写真提供:CONPT-TOUR アーカイブ(ドイツ・フランクフルト)

[●]表紙製版:㈱デイリースポーツ

[●]組版・印刷:㈱デイリースポーツ

長期連載 新聞製作技術の軌跡

その28総集編(前編)

日本の新聞は1871年(明3)1月、初の日刊新聞「横浜毎日新聞」が誕生してから一世紀半以上が経過した。この連載では紙面製作の歩みを、現在の新聞製作技術が一定の到達点に達した20世紀末頃までを区切りとし、過去をあまりご存じない読者を念頭に9年に渡って紹介してきた。今回はその総集編として、2回にわたり明治以来のエポックメーキングな技術を、社会動向を交えて年表にまとめ、新聞の発展を支えた技術の変遷を振り返る。

【明治期】1868~1912年

1869電報サービス開始(東京~横浜間)2331871初の日刊紙「横浜毎日新聞」発刊2271874この頃、円圧平台印刷機が主流に2301876動力付き印刷機使用開始2301876紙型鉛版方式開発(平鉛版)2331877西南戦争2331888新聞社内での活字鋳造開始2201888初の写真的画像掲載2201890国会(第一回帝国議会)開設2301890初の輪転機導入(仏マリノニ製)2301891新聞用巻取紙を国産化233	F-	が開制を開本市でロッドルへもら	44.04
1871 初の日刊紙「横浜毎日新聞」発刊2271874 この頃、円圧平台印刷機が主流に2361876 動力付き印刷機使用開始2361876 紙型鉛版方式開発(平鉛版)2371877 西南戦争2381888 新聞社内での活字鋳造開始2261888 初の写真的画像掲載2261890 国会(第一回帝国議会)開設2361890 初の輪転機導入(仏マリノニ製)2361891 新聞用巻取紙を国産化236	牛	利	掲載号
1874この頃、円圧平台印刷機が主流に2301876動力付き印刷機使用開始2301876紙型鉛版方式開発(平鉛版)2311877西南戦争2321888新聞社内での活字鋳造開始2201888初の写真的画像掲載2201890国会(第一回帝国議会)開設2301890初の輪転機導入(仏マリノニ製)2301891新聞用巻取紙を国産化230	1869	電報サービス開始(東京〜横浜間)	235
1876動力付き印刷機使用開始2301876紙型鉛版方式開発(平鉛版)2311877西南戦争2321888新聞社内での活字鋳造開始2201888初の写真的画像掲載2201890国会(第一回帝国議会)開設2301890初の輪転機導入(仏マリノニ製)2301891新聞用巻取紙を国産化233	1871	初の日刊紙「横浜毎日新聞」発刊	227
1876紙型鉛版方式開発(平鉛版)23:1877西南戦争23:1888新聞社内での活字鋳造開始22:1888初の写真的画像掲載22:1890国会(第一回帝国議会)開設23:1890初の輪転機導入(仏マリノニ製)23:1891新聞用巻取紙を国産化23:	1874	この頃、円圧平台印刷機が主流に	230
1877 西南戦争 233 1888 新聞社内での活字鋳造開始 226 1888 初の写真的画像掲載 225 1890 国会(第一回帝国議会)開設 236 1890 初の輪転機導入(仏マリノニ製) 236 1891 新聞用巻取紙を国産化 235	1876	動力付き印刷機使用開始	230
1888 新聞社内での活字鋳造開始2261888 初の写真的画像掲載2251890 国会(第一回帝国議会)開設2361890 初の輪転機導入(仏マリノニ製)2361891 新聞用巻取紙を国産化236	1876	紙型鉛版方式開発(平鉛版)	231
1888 初の写真的画像掲載2251890 国会(第一回帝国議会)開設2361890 初の輪転機導入(仏マリノニ製)2361891 新聞用巻取紙を国産化235	1877	西南戦争	235
1890 国会(第一回帝国議会)開設 230 1890 初の輪転機導入(仏マリノニ製) 230 1891 新聞用巻取紙を国産化 233	1888	新聞社内での活字鋳造開始	226
1890 初の輪転機導入(仏マリノニ製) 230 1891 新聞用巻取紙を国産化 233	1888	初の写真的画像掲載	229
1891 新聞用巻取紙を国産化 233	1890	国会(第一回帝国議会)開設	230
	1890	初の輪転機導入(仏マリノニ製)	230
1895 伝書雄の利用開始 239	1891	新聞用巻取紙を国産化	233
1000 12 11/11/11/11	1895	伝書鳩の利用開始	235
1904 日露戦争~1905 227	1904	日露戦争~1905	227
1904 記事量が増え、初の扁平活字採用 22%	1904	記事量が増え、初の扁平活字採用	227
1904 この頃、写真版の社内製作開始 229	1904	この頃、写真版の社内製作開始	229
1904 国産輪転機稼働 230	1904	国産輪転機稼働	230

●…歴史は木版から始まった

新聞製作の根幹となる文字組版は、当初鉛活字が準備できず、木活字や江戸時代の出版物と同じ木版で紙面を製作せざるを得ない時期もあった。やがて鉛活字が普及し、明治中期になると購入していた活字を自社鋳造する

社も現れた。

文字とともに紙面を構成する図版は、当初 木版彫刻による版が使用されていた。写真を 網点の大小で表現する網目写真は印刷業界で は1899年(明31)頃に実用化され、新聞社では こうした製版会社に外注して掲載した。大手 紙では1904年あたりから自社製版が始まり、大 正時代後半には大部分の社が移行したようだ。

新聞印刷は、少部数の頃は手引き印刷機と呼ばれる平らな定盤で圧を加える平圧式の印刷機を用いていたが、1874年頃からはロール機械と称される回転するシリンダーで圧を加える能率の良い円圧方式の平台印刷機が主流になった。当初は人力で機械を動かしていたが、76年に読売が初めて蒸気機関を動力として利用し始めた。

●…画期的だったマリノニ輪転機

ただこの頃の印刷機は、いずれも平面の組版に1枚ずつ印刷する「枚葉印刷機」であって、せいぜい1000枚/時程度の印刷速度しか得られなかった。やがて大量印刷のニーズに対応するために90年、版胴と圧胴2本の円筒を加圧接触させ、連続的に巻取紙の表裏に同時印刷する「輪転印刷機(輪転機)」が朝日によって初めて国内に導入された。仏製のマリノニ機である。新聞界にとっては画期的な出来事であった。

朝日は1904年には同機をモデルにして初の 国産輪転機を製作し、自社以外にも地方紙の 求めに応じて提供した。機械メーカーによる 国産1号機は、現在の東京機械製作所の前身 の東京機械製造が06年に完成し、九州日報社 (現西日本新聞社)に納入した。

輪転機と同時に、平らな活字組版に特殊な 厚紙を重ねて圧力をかけ作成した紙型を半円 形に湾曲し、活字とほぼ同じ組成の鉛合金で 半円形の「丸鉛版」を鋳造する「紙型鉛版方式」 も導入され、その後、凸版輪転機(凸輪)と共 に長く使われることになる。ただ、これより 前に紙型を使い、平台印刷機用に活字組版を 複製鋳造する平鉛版は1876年(明8)に読売が 既に実用化している。

新聞印刷に使用する用紙、インキも当初は輸入していたが、枚葉紙は77年頃、巻取紙は91年に国産化された。インキは90年前後に平台印刷用の国産化が始まり、96年には、わが国初の新聞インキ専業メーカーとしてサカタインクスの前身の「阪田インキ製造所」が大阪で創業した。後に新聞インキに参入するメーカーをみると、東洋インキは同年前身の「小林インキ店」が東京で創業、DICグラフィックスは前身の「川村インキ製造所」が1908年に東京で、もう一つの源流の「諸星千代吉商店」(後の「ザ・インクテック」)は1891年に横浜で設立された。東京インキは95年に現・共同印刷の前身の「博文館印刷所・練肉部」として誕生した。

電気信号によって文字を符号化して瞬時に遠くへ送信する電信(電報)は、鉄道と並んで文明開化のシンボルであった。明治政府は電信線の建設に力を入れ、90年頃には全国の県庁所在地が電報で繋がったという。77年の西南戦争で政府軍が勝利した要因の一つが迅速な情報伝達が可能な電報であった。

速報が身上の新聞は、急ぎの記事は高価ではあるが電報を利用したが、電話が次第に普及するにつれ役割を終え、外国通信社からの海外ニュース配信(外電)が中心になっていく。

【大正期】1912~1926年

1914	第1次世界大戦~1918	233
1920	手動モノタイプ初導入	226
1922	高速度輪転機が稼働	230
1923	関東大震災	226
1925	国産初の高速度輪転機完成	230

●…高速度機を国産化、大部数に対応

新聞界では激しい販売競争の中、朝日、毎

日など大部数を擁する社は従来のマリノニ型に対し限界を感じていた。そのため毎日大阪が1922年(大11)、初めて米国から導入したのが高速度輪転機で、従来機の4倍近い印刷能力を有した。しかし輸入機は高価格なため国産化が望まれ、25年には東京機械、翌26年には池貝鉄工が国産化に成功した。

活版分野では、オペレーターが原稿を見ながらキーボードを叩くことで活字を1字ずつ 鋳造して一定の字詰めに並べ、インテルを挿 入する、機械化の始めともいえる手動モノタ イプの導入が20年、朝日・毎日などで行われ た。しかし故障も多く、改良機も登場したも のの、その後の段数変更に伴う活字サイズの 変更を境に使われなくなった。

【昭和戦前期】1926~1937年

1928	鉛版鋳造の自動化始まる	231
1928	写真電送機の実用化	235
1929	この頃からドライマット紙型へ	231
1936	ベルリン五輪で写真を無線電送	235
1937	国内初の新聞多色印刷実施	230

●…写真電送機、外国製を超えた!

大正末には新たなメディアとしてラジオ放送が始まり、新聞界でも電気通信技術の利用が始まった。その契機となったのが28年(昭3)に京都で行われた新天皇の即位の大典で、京都で撮影した写真を電話回線経由で送信するための写真電送機の導入であった。ちょうどこの頃は世界各国で色々な写真電送機がようやく実用段階に入った時期で、毎日がフランスのベラン社製、朝日と通信社の電通がドイツのシーメンス社製の送受信機を購入した。一方、日本電気では独自技術のNE式写真電送機がほぼ完成していた。事前テストで不安定なベラン機に不安を抱えていた毎日が急遽NE式を採用して成功を納め、結果的には海外勢をしのぐことが立証された。

●…輪転機メーカーが増え競争激化

印刷分野では、高速輪転機を製造する国内メーカーが増えて競争が激しくなった。その中で、濱田印刷機製造は36年(昭11)に同社初の高速機を2台名古屋新聞社(現中日新聞社)に納入した後、37年には京都日日新聞社(現京都新聞社)向けに三色印刷装置付きの高速機を納入した。京都日日では同機で同年4月の夕刊で国内最初の新聞多色印刷を実施した。

●…紙型鉛版方式も自動化へ

高速度輪転機の導入とリンクして紙型鉛版 方式も進歩して行った。

紙型は29年頃から自家製に代えて、メーカーから購入する「ドライマット」が主流になった。作業前に加湿、熟成してから使用する。組版から紙型に型を取るには、それ以前のように大型ブラシで叩く方法から、平圧方式や円圧方式の加圧機(ローリングマシン)が使用されるようになった。加圧後の紙型は半円筒形の乾燥機で乾燥し、面積の大きな非画線部などの裏面にボール紙を貼って鋳造に備えて補強する。

マリノニ機当時は手作業で鋳造していた鉛版は、その後ポンプを利用して地金を注入するようになった。そして28年に毎日大阪に高速度輪転機が導入される際には半自動鉛版鋳造機(毎分2.5版)が、31年には朝日大阪に全自動鉛版鋳造機(毎分4版)が米国から輸入された。国内では同年に半自動機を金田機械製作所が朝日大阪に納入した。

【戦中期】1937~1945年

1937	日中戦争~1945	230
1938	国家総動員法施行	230
1941	扁平活字を本格採用	227
1941	太平洋戦争~1945	227

●…「不要不急」とみなされた輪転機

37年7月からは日中戦争が始まり、38年に

は国を挙げての戦争遂行のため国家総動員法が施行された。以降太平洋戦争終結まで、不要不急のものとみなされた新聞輪転機など欧米の技術にキャッチアップするよう努力していたものが製造禁止となり、技術的な停滞を余儀なくされた。

●…扁平活字で小さな文字を読みやすく

日中戦争開始とともに新聞用紙は供給不足となり消費が厳しく統制され、以降、新聞は減ページに転じた。そのために朝日、毎日、読売は基本活字を7ポイントから6.75ポイントに縮小し、段数も13段から14段制として、できるだけ情報量を確保しようとした。さらに40年1月から3社は6.3ポイント活字に縮小、15段制となった。しかしこの活字は小さく、原材料の制約による用紙やインキの品質低下も相まって評判が悪かった。そこで朝日は活字の天地はそのままに幅を広げた扁平文字を当時の新聞連盟に提案し、朝日、毎日は41年12月から使用を開始した。この活字は視覚的には7ポイント活字と同じ効果があると認められ、読者からも好評を得た。

【戦後復興期】1945~1955年

1949	15字詰め18段制実施	237
1949	図版撮影 湿板からフィルムへ	259
1950	国内初のアーチ型輪転機開発	239
1950	全自動モノタイプ導入開始	237
1951	15段制、規格活字制定	237
1951	さん孔テープ遠隔地送信開始	237

●…機械化・効率化へ動き出す

終戦直後からしばらくの間は技術開発どころではなく、各新聞社は被災、あるいは老朽化した設備の修復が急務であった。メーカーも戦後の混乱から一応の落ち着きを取り戻した50年前後から新たな技術開発に取り組み始めた。

長らく人海戦術で作業をこなしてきた活版

工程も機械化に向けて動き始めた。背景には 46年(昭21)の漢字の数を制限する当用漢字の 告示や、日本新聞協会工務委員会が取り組ん だ全国の新聞社の活字サイズ、段数の統一化 が51年1月から実現したことがある。

大正期に導入されたものの失敗に終わった 手動モノタイプは、49年、日本タイプライタ ー、東京機械が新機種を完成させ、活字を手 で拾うよりも効率的なため各社で採用され た。

一方、オペレーターがいったんキーボードを持つさん孔機で文字を入力して符号化した穴の開いた紙テープを出力し、その紙テープを読み取ることで文字を鋳造して段単位に並べる全自動モノタイプを50年に毎日と中川機械が完成した。以降、東京機械、日本タイプライター、池貝鉄工などが55年前後に独自の方式の製品を発売した。

●…現代的輪転機が出現

50年、欧米各社の動向を研究していた朝日は東京機械、池貝鉄工と共同開発した全密封式ユニバーサル型輪転機を発表した。当時欧米でほぼ標準形式となっていた版胴と圧胴の配列およびフレームをアーチ型構造としたもので、さらにそれまでの機構部がむき出しの状態から防音、防塵のためのカバーやプロテクターなどを多数装備し、作業性、安全性を高めていた。このような配列や機構は現在のオフセット輪転機にも繋がる現代的なものであった。

●…多色印刷相次いで登場

戦前は一部の社が手掛けただけの多色印刷に各社が取り組み始めたのもこの頃で、最初は中日が50年に東京機械から購入した戦前型の竪型輪転機上部に3色の多色装置を搭載したものであった。次は朝日が導入したユニバーサル機で親機上部に4色の多色装置が装備されていた。これは4ページ幅の2頁分しか印

刷できなかったが、52年には読売が4ページ 幅全面に印刷可能な多色装置を備えたユニバーサル機を発表した。以上の多色装置の版胴は親機の1/2径が採用されている。毎日は建屋の制約もあり、搭載型の採用ができなかったため51年、親機の胴と同径の単色刷り用第3胴を持つ逆転可能な2台の親機を使用して多色印刷する米国流の方式を採用した。

●…印刷資材の品質向上に取り組む

新聞インキは戦争中、生産を維持するために新聞業界と新聞インキ業界によって設立された日本新聞インキの専業1社体制であったが、47年の独占禁止法の公布によって再び自由な生産体制となった。しかし原料事情は非常に厳しく、質の低下は免れなかった。新聞業界では品質確保のため新聞インキの早期規格化を望み、49年には工業技術庁の専門委員会で検討を開始した。インキ工業会新聞インキ懇話会とも協議の結果、51年には日本工業規格(JIS)で世界初の新聞インキに関する規格が制定された。

一方、主要生産地の樺太などを失った新聞用紙の生産量は、46年には戦前の最盛期37年の23%まで激減してしまった。最悪期、新聞各紙はタブロイド判2頁の朝刊を発行せざるを得ないところまで追い込まれた。用紙調達に汲々としていた新聞各社は仙花紙と呼ばれるクズ紙・古紙を漉きなおした粗悪なザラ紙に似た用紙も使用した。

戦後しばらくは上記のような状況で用紙の 品質を顧みる余裕はなかったが、用紙事情が 好転してきた52年頃、工務関係者から輪転印 刷に適合した巻取紙を得るために規格制定の 要望が起こってきた。同様な動きが工業技術 庁にもあり、3年以上の検討期間を経て56年 に新聞巻取紙の規格が制定された。

次回も深田一弘が総集編(後編)を執筆します。

新局長に就任して

新聞インフラを支える

北海道新聞社 執行役員制作局長 **村上 孝志**

北海道新聞は1942年 (昭和17年)の創刊から11 月1日で80周年を迎えます。2024年秋には、現在 の時計台の斜め向かいに 位置する現本社ビルから 東に700mほど離れたと



ころに新本社ビルを建てて、創業以来、初め て移転します。

このため、10月から本社にあるほぼ全てのシステムを無停止かつ安全にデータセンターに移す計画です。1年ほど前から移転方式や障害時対策、更新時期の調整などの検討を進めてきました。初めての経験ですので、来春までに無事に終えられるように慎重に進めたいと思います。また本社移転にあわせてペーパーレス促進、内線スマホやM365導入など業務のデジタル化も進めており、制作局が取り組むべき全社的な課題も増えています。

もう一つの重要な課題としては、富士通、朝日新聞社、北海道新聞社の3社で構築中の「統合編集システム」です。2020年からプロジェクトを開始し、来年の稼働を予定しています。全国紙と地方紙が同じシステムを共有する点はこれまでにない試みだと思います。3社での仕様検討は、連日オンライン会議で行い、細部の詰めはコロナ感染者数の波の谷間でリアル会議をするなど、コロナに振り回されながらの2年間でした。既存システムや運用の違いはあるものの、可能な限り仕様を統一するという本来の理念から外れないように心がけてきました。このシステムが2社だけではなく他社にも共有の輪が広がるのか、気

になるところです。

*

広告や販売の下げ止まりは見通せず、当社も厳しい状況に置かれています。紙の減収を補うデジタルや新たな事業を育てるには、まだまだ時間がかかりそうです。

社の経営を支えているのはやはり新聞であ ることは今後も変わりません。読者に紙面を 安定的に届けるには、システム、印刷、輸送 などの新聞インフラをしっかりと制作局が支 えていかなければならないと強く感じていま す。トラブルによる店着遅れは、更なる読者 離れにも影響します。但し、言うのは簡単で すが、以前よりも増してシステムは複雑化し ているにも関わらず、コスト削減が求められ る時代です。更新期を迎える印刷工場も部数 減の中、大きな設備投資となるため、最適解 を見つけるのも経営課題です。ウクライナ侵 攻や円安による物資高騰もボディブローのよ うに効いてきます。また北海道の面積は 83.424kmで、日本の2割を占め、輸送ルート も200を超え、日々、遅れなく、間違いなく 配送することの難しさや広さを再認識させら れました。

印刷や輸送では、以前から協業や委託・受 託により効率化を進めてきた歴史がありま す。現状のままでは、システム含めて今後も 自社だけで維持できる体力があるのか疑問に 感じます。協業や共有は、多くのハードルが ありますが、業界全体として将来にわたり持 続可能な新聞インフラを考える時期に来てい るのかも知れません。

*

今年から来年にかけてシステム移転など重要なプロジェクトが目白押しですが、この山を制作局の総力で乗り越えたいと思います。また業界の課題についても皆さんと情報交換し、知恵を絞りながら未来を一緒に考えられたらと思います。よろしくお願いします。

後輩たちの未来のために

岩手日報社 執行役員総合メディア局長

佐藤 晋

「いったん輪転を止めて待てますか?」「間違いがあったから再降版してください」。編集局のときはよくも勝手なことを言っていたものだ、と今になれば思う。損紙率



を下げるための努力も、色具合の緻密なこだわりも、「記事の内容がすべて」なんて高飛車に考えていた当時は知る由もなかった。

印刷、システム、デジタル戦略、コンテンツ事業の4部の寄り合い所帯である総合メディア局を担当して3カ月。新聞社は多様な仕事の組み合わせで成り立っていること、それぞれの立場で新聞そのものや会社を良くしたいという信念や誇りを持っていることをあらためて実感している。

*

まずは安定して新聞を発行し続けることが 最大の任務となる。印刷、システムについて は「プロ」たちがよりモチベーション高く仕事 に取り組める環境づくりくらいしかできるこ とがないが、納得いくまで質問攻めして現場 の課題や専門知識を吸収しているつもりだ。

部品購入や機器の維持管理料など毎日手元に届く精算や稟議の書類を見るたび「新聞をつくるのってお金がかかるなあ」と驚かされる。6月まで1年余り出向していた折込チラシの関連会社では円に満たない銭の単位で販売センターや広告主とやりとりする帳簿を見ていたこともあって、そのギャップは大きい。

そこへきて大幅値上げの嵐が吹き荒れよう としている。用紙、インキ、刷版、電力…。 しばらく、経営体力をかなり奪われることは 間違いない。各業者の説明を聞いているとや むを得ない事情も理解できるが、ダメージを 最小限に食い止めるために粘り強く議論しな ければならない。

人材の確保と育成がもう一つの大きな課題 となる。当社では1人がいくつものポジショ ンを担えることを目指して、部や局の垣根を 飛び越えての比較的短期間での人事異動が行 われるようになって久しい。専門性が高いシ ステム部や印刷部も例外ではなく、コロナ禍 もあって「印刷部員が相当数出勤できない事 態となっても他局にいる経験者がカバーでき る。同じ輪転機の他社で有事があれば人材を 派遣して助ける」ことのために人事交流は加 速している。一方で、軸となっている人材か らは技や知識の継承がうまくいっていない不 安や不満も聞かれる。仕事の質が低い「素人 集団」になってしまっては元も子もなく、人 を育てる意識や能力の向上策に力を入れると ともに、バランスの吟味を怠りなく理想配置 に近づけたい。

*

新聞に未来はあるのか。考え始めたらきりがない。言えることは、右肩下がりが既定路線なら少しでもそれを食い止めるため、やるしかないということだ。われわれには東日本大震災を語り継ぐという使命もある。四十代でこの職を拝命したこともあり、特にも「後輩たちの未来のために」との思いは強い。

そういう意味ではデジタル、データベース、知的財産といった分野を、会社にとっての伸びしろにしていかなければならない。報道部長時代にNIE全国大会の地元開催のかじ取りも兼務したが、4年前の当時ですら「子どもたちは新聞の読み方が分からない」「若い先生も読まない」と散々聞かされた。今は拍車がかかっていることは間違いない。デジタルを新聞に触れるきっかけに活用しない手はない。販売、広告と並び立つ第三の収入源に育てるのは容易ではないが、紙を大事にしつつベストミックスの道を探りたい。

素晴らしいチャレンジ精神

中日新聞北陸本社 技術局長

三品 敦

降版時間まであと数 分、見出しはもう何本も 作った、記事もたくさん 組み付けたはずなのに、 組版端末画面の空白部分 がなくならない。組んで も組んでも完成しない紙



面。焦りから固まる指先、力の入った肩。冷や汗とともに、ようやく目が覚める。整理面担時代によく見た夢。十数年見ることのなかった悪夢とともに朝を迎える日が最近続いた。単身赴任を楽しんでいるつもりでいたが、新しい職場に結構緊張している自分に気づかされた。

36年ぶりで人生2度目の金沢生活が始まった。前回は学生、四畳半の下宿生活が当たり前の時代。もはやそんな下宿は姿を消しただろうが、どれほど変わったのだろうと、懐かしさと期待を胸に赴任した。金沢駅の壮大な鼓門に驚き、城内に大学がないことに寂しさを感じつつ、それでも残っていた行きつけの定食屋や飲み屋を訪れ楽しんでいたはずだった。

*

入社以来ほとんどの時間を編集局整理部で過ごし、初めて経験する技術部門の職場。早々に参院選の投開票日を迎えた。北陸本社の制作部門で最終降版を見届け、800mほど離れた印刷工場へ向かった。選挙情勢にもよるのだろうが、大組の現場はどんどん静かになっていくような気がする。「選挙当日にドタバタするな」という先輩の教え通りの冷静さなのか、テレビの選挙特番のにぎやかさとは大違いだった。

一方、印刷現場は輪転機の騒音の下で吐き 出された新聞の湿り気とにおいが今も昔も変 わらなかった。思えば、朝刊製作を印刷まで 通して見たのは入社以来わずか数回。あらた めて、前職とは違う現場に来たことを実感し た。

着任した職場は、経費節減プロジェクトが 進行中だった。コロナ禍の中でスタートした こともあり「ニュー・ノーマル・プロジェクト」 と名付けられたプロジェクトは、技術局を中 心としたメンバーが北陸本社内の業務改善に 取り組む。施設管理から新たな収入源まで、 聖域を設けず、あらゆる課題を議論の対象と している。

例えば、印刷工場では月々の上下水道料金、 光熱費の推移をメンバーで共有し、空調の最 適な時間、設定やボイラーの運転方法を模索 している。気温と湿度の資材への影響を確認 しながらの作業だ。輪転機各部のメンテナン ス期間も試行錯誤を続けている。その過程に は失敗あり成功あり。安定稼働最優先のイメ ージとは少し違って、チャレンジ精神に驚か される。印刷現場の印象が塗り替えられた思 いだ。聞きなれない単語と前職場にはない視 点に、トンチンカンな発言で議論の邪魔にな らないよう、黙ってついていくのが精いっぱ い。それでも、たまらず「分からない。教えて」、 と繰り返している。

*

2カ月たっても、まだ新聞印刷ハンドブックを片手に請求書や注文書をチェックし、報告を読み解く日々が続く。普通に仕事の会話をするには、まだまだ学ばなければならないことだらけだ。「勉強中」の看板を下ろせる日は来るのか。何かを提案するところまでなれる自信はない。

厳しい環境の業界にあって、職場は変化を 求められている。しかし、今の自分には、現 場の知恵に頼るしかない。局員のチャレンジ 精神も見せてもらっている。ならば、最優先 事項は、現場のやる気を維持し、盛り上げる ことだと考えている。

今、「紙による情報 |が支持されている

0

週

ĪŦ

紙など

鋭

い切

W

求

在英ジャーナリスト **小林 恭子**

私たちの生活はますますデジタル化に向かっている。印刷物として成長を遂げてきた歴史を持つ新聞は、スマートフォンの画面に刻一刻と新しいニュースが表示される現実の中で何を目指すべきなのか。

印刷物であることで支持を受ける英国の媒 体の例からヒントを探ってみたい。

〈毎日読む人、年々減少〉

欧州連合(EU)に住む約2万6000人を対象とした統計調査サービス「Statista」の調査(4月22日発表)によると、過去10年で「毎日またはほぼ毎日新聞を読む」という人の割合はほぼ毎年減少している。2012年、その割合は37%だったが、22年には21%に。欧州各国では無料新聞が駅構内や街角に積まれており、「新聞を手に取る」ことは比較的容易だが、10年で16%の下落は欧州の新聞界にとっては大きな打撃だ。Statistaの統計調査を分析したエイミー・ワトソン氏は「紙の新聞を読まない人は、オンラインでの閲覧に向かう。この傾向はこれからも変わるとは思えない」と述べている。

〈EU残留支持派のための新聞〉

筆者が住む英国では新聞メディアは世論形成に大きな影響を及ぼす媒体の1つで、スーパーの棚には複数の新聞が並んでいるものの、新聞雑誌公査機構(ABC)の調査では紙版の発行部数の減少が著しい。しかし、印刷版での発行が読者の支持を得るいくつかの媒

誌上 CONPT-TOUR

体がある。 **英** その1つ **国** 新聞[ザ・コ

その1つが2016年創刊の週刊新聞「ザ・ニュー・ヨーロピアン」(「新しい欧州人」の意味、略称は頭文字を取ってTNE)である。名称の由来は1990年代に発行されていた週刊新聞「ザ・ヨーロピアン」にちなむ。創刊のきっかけは2016年6月23日に行われた、EUを離脱するか残留するかを問う国民投票だった。投票日までのキャンペーンで、国内の意見はほぼ真っ二つに分かれた。投票結果は離脱支持が52%、残留支持が48%。事前予想では最後には残留支持が勝つ

(5)

という見方が大勢を占めており、僅差による 勝利であったことから、負けた側に大きな落 胆と不満感が広がった。そこに登場したのが TNEであった。創刊日は16年7月4日。国民 投票の結果をまだ実感できないでいた国民に 「48%のための新聞」として登場した。48%、 つまり残留支持派のための新聞である。左派 系大衆紙「デイリー・ミラー」や地方紙チェー ン「ローカルワールド |の編集部にいたマッ ト・ケリーが創刊編集長となり、地方紙出版 社アーカントが発行した。当初は4週間のみ の発行を意図していたが、3号で「黒字化した」 と宣言し、発行部数は約4万部を記録。その 後も続けることになった。2017年、TNEは 英国の新聞メディアの編集幹部で構成される ソサエティ・オブ・エディターズから会長賞、 新聞界が選ぶ英国メディア賞の最優秀創刊 賞、優秀印刷物賞などを受賞している。

TNEの論調の特徴はEUびいきと反EU離脱だ。強いメッセージ性を持たせた1面には常に人目を引くようなデザインを採用した。

ある号では離脱交渉を担当したテリーザ・メ イ元首相が「嘘つき」であること示すため、ピ ノキオを思わせる鼻を付けた画像を使い、別 の号では離脱運動を主導したボリス・ジョン ソン元首相を想起させる人物が裸で鏡に向か う姿を掲載。鏡の中には王冠を冠った元首相

の顔が見えた。 「裸の王様」、つ まり「何も知ら ない愚か者 | と いう意味であ る。EU支持派 の論客のコラ ム、気候温暖化 やフェミニズム 特集など、左派 系論考を読みた い読者を満足さ せる編集方針を 採ってきた。 した (撮影筆者)



「ザ・ニュー・ヨーロピアン|9 月1-7日号ではジョンソン首相 がトイレに流される場面を1面に

2021年、ケリーの他に元ニューヨーク・タイ ムズのCEOマーク・トンプソン、元フィナ ンシャル・タイムズ編集長ライオネル・バー バーなどとともに結成したコンソーシアムが TNEを買収した。

コロナ禍で政府が行動規制を出したことで 発行部数が落ち込んだものの、現在までに定 期購読者を含む販売部数は約2万。店頭での 販売は約7000部で、1部3.95ポンド(約500円)。 印刷媒体を主力と位置付けるTNEの購読者 には、50歳以上の比較的高額所得者が多い。 TNEがこれまで続いてきたということは、 「ニュースを紙版で読みたいという人が少な からずいることを示している。近年、ビニー ル盤のレコードや地上波テレビの人気が高ま っており、これから何年もの間、印刷媒体も このメディア環境の一部として存在するのだ ろう | (BBCのメディア記者アモル・ラジャ ン、BBCニュース、2021年2月1日)。 今年7月、 TNEは読者に株主としての投資を呼びかけ た。2日間で当初目標の50万ポンド(約8000万 円)に達し、最終的に200人の新規株主による 100万ポンドの資金を集めた。大株主のケリ ーはより知名度を上げたい、将来は欧州大陸 でも販売を広げたいと述べている。

〈電子版との併読で部数増〉

老舗の保守系政治週刊誌「ザ・スペクテイ ター」(1828年創刊)も印刷版に根強い支持層 を持つ。2021年上半期で平均部数が約10万 500部に達し、これは前年同期比で27%増。 このうち、印刷版は約7万7000部である。フ レイザー・ネルソン編集長によると、電子版 の購読契約をする際に、「印刷版も含めての 購読を選択する人が多い」という(2021年8月 12日、ブログ)。電子版が印刷版の購読に貢 献している、というわけである。スペクテー ターは保守党に近いと言われ、2010年から続 く保守党政権の裏の話を知りたい人々に強い アピール力を持つ。ブログやポッドキャスト、 購読者対象のイベント開催にも熱心だ。

〈厳選した情報を読みやすい形で〉

その週に起きた世界中のニュースを短くま とめ、1冊の週刊誌にして販売する。日本で いうところの「文春砲」にあたるスクープは一 切ない。これがニュース週刊誌「ザ・ウィーク」 の特徴だ。「古いニュースの簡約版」とも言え るが、ザ・ウィークは優れた編集によって、 インターネット時代でもページをめくって読 みたい、代価を払いたいという思いにさせて くれる媒体として、人気を博している。世界 中の200の媒体からザ・ウィークの編集部が 選び、簡潔にまとめた記事を見れば、論じる べき・知るべき話題を頭に入れることができ る。それぞれが短い記事なので、作業の合間 にでも目を通すことができ、興味深い話題を 取得できる。ネットの普及で手軽にニュース にアクセスできるようになったが、逆に「あ ふれる情報の中でどれを読んだらいいか分か らない |と思う人にもぴったりだった。

ザ・ウィークの創刊は1995年で、すでに27年の歴史がある。創刊当初はネットでニュースを読む習慣が始まったばかりの頃。かつて日曜紙サンデー・タイムズやサンデー・テレグラフの記者だったジョン・コンネルが自宅を売り、友人たちからも資金をかき集めて創刊した。現在はフューチャー・パブリッシング社が発行している。米国版も2001年から。発行部数は印刷版が2021年で約12万6000部

(ABCによる、 以下同)、電子 版が約2万7000 部。印刷版には 科学と自然に焦 点を置いた児童 用もあり、これ が約12万9000部 である。

ザ・ウィーク の9月3日号を開 いてみよう。表



「ザ・ウィーク」の**表紙** (筆者撮影)

紙は生活費の高騰を示す「厳しい時がやって くる」という見出しで英国紳士が湯たんぽを 抱えてソファーに座る姿を描く。広告面の後 が見開きでその週の大きなニュースを扱う。 両頁にまたがる最初の段が国内ニュースで、 「何が起きたか | でエネルギー高騰の概略、「論 説面がどう言っているか」で各紙の論説を紹 介、「コメンテーターがどう言ったか |で論者 の見方、「次に何が起きる?」で今後の展開を 説明する。その下の段は国際ニュースで、ウ クライナ戦争を取り上げた。最後の段は「悪 いことばかりではなかった」という見出しで 心温まるニュースを紹介している。次のペー ジが「政治」で、欧州政治で議論の的になった トピックを紹介し、次からが地図入りで「欧 州を眺める」、「世界を眺める」という見出し で世界各地の興味深いニュースを短くまとめ ている。その後の「ブリーフィング(説明) |と 題されたコーナーでは、毎週、多くの人が知 りたいと思いながらも詳しくは知らない注目 のトピックを取り上げる。この号では英国の 次期首相とされる政治家リズ・トラスを紹介 した(9月6日、首相就任)。

上記の例では、印刷媒体で読むという、長年培われた読者の習慣を土台に、ほかでは読めない厳選した情報を読みやすい形で提供していることが共通点だ。スマホで随時ニュースにアクセスできる今だからこそ、いわばデジタル・デトックスとして印刷媒体が好まれている可能性もある。BBC記者が指摘したように、今後何年もメディア環境の中で印刷版新聞・雑誌は生き残っていきそうだ。

エリザベス女王死去

感謝の思いを紙面に

9月8日、エリザベス英女王が死去した。9日付の新聞各紙は70年の長期治世を達成した君主との別れを印象的な紙面作りで競い合った。

最も目を引いたのが無料紙「メトロ」の1面で、25歳で即位した女王の若い頃のポートレート写真をカラーで紙面全体に掲載した。文字は紙名のほかには「エリザベス2世」と「1926-2022」のみ。高級紙タイムズはラッピング紙面を使い右



「メトロ」の1面 (「プレスガゼット」の サイトから)

面では戴冠式(1953年)の女王の姿をカラーで、左面では黒の背景に最近の女王の顔写真を掲載した。ラッピング紙面を取ると、女王のモノクロ写真を訃報記事で囲む1面になった。保守系大衆紙サンの見出しは「女王様、ありがとう」、左派系大衆紙ミラーは「ありがとう」。新聞の政治志向にかかわらず感謝の面が強調された。

多くの新聞が数十頁の特集面を 挟み込み、全国紙が女王の死に費 やした頁数は合計で426頁にも達 した(「プレスガゼット」調べ)。

楽事万歳

マイチーム

河北新報社 技術局長

大江 秀則

東北の田舎で育った小学生にとって、プロ野球イコール巨人だった。毎晩のようにテレビに映し出されるのは巨人戦ばかり。刷り込みとは恐ろしい。新聞との接点も、きっかけは野球。毎朝、新聞受けに届けられる朝刊(もちろん河北新報)を取りに行くのが習慣になった。他チームの勝敗や順位をいち早く確かめるためだ。そのうち、他の記事も読むようになった。

本当の意味で、初めてファンになったのはロッテだった。本拠地を失い、1973年から県営宮城球場に準フランチャイズを置いた。特典のお菓子を目当てに、子ども向けファンクラブにも入った。監督は「カネやん」こと金田正一。地元の野球熱は一気に高まった。

翌年、ロッテは前・後期制のパ・リーグでプレーオフを制した。カネやんは宮城球場で宙に舞った。迎えた日本シリーズ。ロッテは中日を下して頂点に立ったが、試合が宮城球場で行われることはなかった。収容人員が規定を満たさず、当時の後楽園球場に取って代わられた。日本一を祝うパレードの舞台も東京。子ども心に「準」の悲哀を悟った。

野球との距離が再び縮まる出来事が2004年に起きた。ライブドアとの新規参入争いの末、東北楽天ゴールデンイーグルスが誕生。宮城球場は正真正銘のフランチャイズになった。急きょ取材班が編成され、キャップのお鉢が回ってきた。官民の応援組織「楽天イーグルス・マイチーム協議会」も発足した。メディア代表で参加していた設立準備の会合で「マイチーム」という名称を提案したのは自分だった。5年間で宮城を去ることになったロッテと、同じ轍は踏んでほしくないと思った。

待ちに待った05年3月26日の開幕戦。対戦相手は奇しくもロッテだった。ビジターに大挙して訪れた応援団を取材しながら、スタンドで歴史的な勝利に立ち会った。翌日は0対26と、これも歴史的な大敗を喫したが、声援が途切れることはなかった。小学生時代以来、プロ野球の結果をチェックするのが習慣になった。

歓喜の時は8年後に訪れた。13年11月3日の日本シリーズ第7戦。東北楽天はホームで巨人を倒し、初めて日本一を勝ち取った。当日は別の取材で仙台を離れていた。そそくさと仕事を切り上げ、走行中は映らない車のテレビの試合中継に耳をそばだてながら、球場に急いだ。チケットはない。単に、その時を近くで迎えたかった。同じ思いを抱いた大勢のファンが、球場を取り囲んでいた。

3週間後、優勝パレードは仙台市中心部で行われた。沿道は21万4000人の観衆で埋め尽くされた。「おめでとう」「ありがとう」。星野仙一監督率いるイヌワシ軍団に、栄誉を共に喜ぶ声が飛び交った。



ボールパークの魅力を増す 楽天生命パーク宮城

た。それが、改修に改修を重ねて生まれ変わった。現在の楽天生命パーク宮城は観覧車、 メリーゴーランドといった遊戯施設まで備える。地域で自慢のボールパークだ。

球場と仙台駅を結ぶ大通りの街路灯には、 チームカラーのクリムゾンレッドで彩られた 応援フラッグがはためく。地元の小学生がか ぶる帽子も、ほとんど同じ色だ。「地域密着」 を旗印に産声を上げた新球団。マイチームと いう言葉も、しっかり浸透してきた。

第127回技術懇談会

椿本チエイン埼玉工場を見学



日本新聞製作技術懇話会は第127回技術懇談会として、7月20日午後、椿本チエイン埼玉工場(飯能市)の見学会を実施した。今回の技術懇談会はCONPT会員社間の相互理解を深める目的で企画されたもので、会員社14社19名、事務局2名の計21名が参加した。

埼玉工場は1962年にマテハン工場として竣工、66年に自動車部品が加わった。それぞれ次世代技術や新商品の開発、生産性の向上、人材育成を担うマザー工場と位置付けられる。また、屋上緑化や太陽光発電設備などにより環境負荷低減活動に努める環境モデル工場でもある。

この日の見学はマテハン工場展示場(M. LABO)と自動車部品工場。

[M. LABO]

工場正門を入って直ぐ右手がマテハン工場 とM. LABO。コンセプトは「魅せる開発工 場」。技術者が在席する技術センターと隣接している。

M. LABOは"マテハン技術の総合力を見せるショールーム"として、2018年に設立された。主な展示機器を紹介する。

オートランバンガード=空いた空間を活用 するモノレール式高速搬送システム。食品工 場、クリーン工場などで実績があるという。

パワーコラム=省スペースの垂直自動棚。 資材、部品などサイズに合せて効率的に保管・ 管理できる。

リニソート=リニアモータ駆動のチルトトレイ式高速仕分け機。小売、運輸、アパレルなどに実績があるという。

T-Carry system = 小型AGVピッキングシステム。複数のAGVが自動で渋滞、衝突を回避しながら指定された場所へモノを運ぶ。

クイックソート=ターンローラ式高速自動 仕分け・分岐装置。3方向に分岐でき、ユニットを増設することで拡張が自在にできると いう。

ラボストッカ=液体窒素により冷却した -150℃の超低温自動ピッキング保管庫。サンプルを長期間、安全に保管する。

【自動車部品工場】

椿本チエインは、クランクシャフトの回転 を正確にカムシャフトに伝える自動車エンジ

【工場見学参加者から】

今回の工場見学会に参加した3氏に感想を お願いした。

▽チェーンをコア技術に、幅広く搬送関連 分野にビジネスを広げていく姿は非常に興味 深かった。圧倒的シェアを持つ製品群と社会 ニーズをとらえた新分野の製品群の組み合わ せは、理想的な企業の成長過程を体現してい ると実感した。実に刺激的な工場見学でした。 (イワタ 阿部 浩之)

▽印刷工場でリニソートなどを拝見することはありましたが、今回は薬品開発用など、

普段あまり目にする機会のない他分野向け機器への取組みついても知ることができ、大変勉強になりました。この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。

(西研グラフィックス 米田 直史)

▽工場の印象は「においが違う」。印刷工場でもインキ工場でもない機械工場はにおい控えめだった。稼働状況を示す画面や音楽を鳴らしながら進む搬送ロボットはどこかで見たことがある光景であり、においが違っても効率化の追求には共通するものを感じた。

(東洋インキグラフィックス 立川 雅人)

ン用タイミングチェーンドライブシステム市場で世界1のシェアを誇る。

チェーンのテンションを調節し、騒音を低減するための部品である「テンショナー」製造の新工場棟が2019年、埼玉工場で稼働した。まず、そのラインから見学した。

注目は設備稼働や生産状況の見える化。稼働状況を表示するモニタリングシステムが構築されている。奥手に進むと部品保管ゾーンがある。部品を収納した箱が並ぶ自動倉庫だ。指令を受けた充電式の無人搬送ロボットが3台、部品を受け取って運んでいく。

材料供給も、やはりロボット。材料の適否を確認しながら一つピッキングし次の工程へ送り出す。最終の外観判定の工程では、現在、人間と同じレベルで判定できるロボットがテスト段階に入っているという。テンショナーは月産128万個とのこと。

続いてローラチェーンの製造ラインへ移

動。月産91万本という。見上げると「ダントツモデルライン」の看板。目標稼働率が書かれている。ローラチェーンはカムシャフトを駆動し正確なバルブタイミングを生み出すタイミングチェーンの中核コンポーネント。寸法異常などをチェックする画像検知機、製造年月日などをレーザー刻印するマーキング装置などを経てチェーンができあがるまでの一連の工程を見学した。

□新ビジネス紹介

新しい事業分野として取り組んでいる「eLINK |が紹介された。

これは、電気自動車(EV、PHEV)の大容量バッテリーから取り出した電力と電力網を双方向につなぎ、停電時には非常用電源として、平常時には系統への給電やEVへの充電を制御する事業者向けV2X対応充放電装置だとの説明があった。

江戸前 扇寿し(東京・八重洲)

東京駅近くで昭和を感じながら、塩辛巻きとビールはいかがでしょうか。再開発が進む八重洲エリアに残っている郷愁を誘う雰囲気の大衆的な寿司屋さん「江戸前扇寿し」を紹介します。

東京駅八重洲口から徒歩4分、銀座線日本橋駅から徒歩3分ほど。この辺りは大規模再開発にコロナ禍が重なり、多くのお店が閉店を余儀なくされています。そんな中、昭和を強く感じさせる「扇寿し」が頑張っています。

70才代の大将と50才位の息子さんが親子で寿司を握り、大将の奥様とベテランの女性がてきぱきと接客、大変活気があります。外観も店内も、タイムスリップしたような昭和の匂いが漂い、すこぶる安心感を覚えます。価格も非常にリーズナブルで、お昼時には多くのビジネスマンがランチ握りを

美味あっちこっち



イチオシの自家製塩辛巻き

頬張っています。

私のイチオシは自家製塩辛巻き。これが ビールのつまみに最高です。非常に人気が あり、品切れでがっかりすることもしばし ば。市販の塩辛巻きもありますが、自家製 と比べると雲泥の差です。必ず「自家製塩 辛巻き」と注文してさい。

ビールがどんどん進み、ほろ酔い気分になること間違いなし。

DICグラフィックス 石井 靖

新聞協会賞に6件

技術賞は読売東京 経営賞は愛媛

日本新聞協会は9月7日、2022年度の新聞協会賞6件を発表した。新聞技術賞、新聞経営賞にはそれぞれ1件が選ばれた。10月18日に山梨県富士吉田市で開かれる新聞大会で授賞式が行われる。

新聞協会賞は2020年度から、新聞報道の力を社会に広く訴えるという賞の趣旨を明確にするため、従来の編集部門のみを対象とし、旧技術部門は新聞技術賞、旧経営・業務部門は新聞経営賞として表彰される。



新聞技術賞は読売新聞東京本社の「Auto-Pilot Printing AI活用による輪転機自動運転とスキルレス化を目指して」が選ばれた。

<授賞理由要旨>読売新聞東京本社は、輪転機の適正な設定や操作をAI技術の活用によって自動化するシステム「Auto-Pilot Printing」(APP)を三菱重工機械システムと共同開発。印刷に関する蓄積データを分析、これを基にした運転支援AIやテンション安定化機能などにより、刷り出し時の自動運転に成功、高品質な印刷を熟練の技量や経験に依存せずに行うことを可能にした。複雑な操作が大幅に減少、早期のテンション安定化は損紙削減効果ももたらした。

新聞製作講座 26日・27日に開催

日本新聞協会は第69回新聞製作講座を10月26、27の両日開催する。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、昨年同様Zoomウェビナーによるオンライン講座となる。

【プログラムの概要】

- ◇上流コース:10月26日(水)
- ▽講演「セキュリティーの最新動向~新聞社 が講じるべき対策」
- ▽パネルディスカッション「働き方改革 |

【新聞協会賞】

- ▽朝日新聞社:国土交通省による基幹統計 の不正をめぐる一連のスクープと関連報 道
- ▽読売新聞東京本社:「五輪汚職事件」を巡 る一連のスクープ
- ▽毎日新聞社:安倍晋三元首相銃撃事件の 写真報道
- ▽中国新聞社:写真連載「太田川 恵みと 営み |
- ▽北海道新聞社:安倍政権の日口交渉を追った長期連載「消えた『四島返還』」を柱とする「#北方領土考|キャンペーン
- ▽静岡新聞社:連載「残土の闇 警告・伊 豆山」と一連の関連報道

【新聞技術賞】

▽読売新聞東京本社: Auto-Pilot Printing AI活用による輪転機自動運転とスキルレス化を目指して

【新聞経営賞】

▽愛媛新聞社:愛媛新聞forスタディ(⑥ スタ)~有料化による持続可能な収益モ デルの確立~

印刷立ち上げ作業時のスキルレス化の実現で業界共通の課題を解決する方法を見いだし、将来の完全自動運転化の可能性を示した先進的な取り組みは、今後のAIを用いた技術開発を一層促進するものとしても高く評価される。

- ▽発表「内製開発やツール活用に関する事例 報告 |
 - ◇下流コース:10月27日(木)
- ▽講演「輸送DX」
- ▽講演「脱炭素への取り組み-実例の紹介」
- ▽パネルディスカッション[新聞印刷工場の リモートメンテナンス」
- ▽発表「実務者による発表-創意と工夫 |
 - ※受講申し込みは法人単位。受講料は受講 者数によらず1社18,000円。10月5日締め 切り



なにわ淀川花火大会

3

トッパンメディアプリンテック関西 統括部長補佐 中野 聖士

トッパンメディアプリンテック関西(以下TMK)は2012年(平成24年)に凸版印刷と朝日新 聞社が共同で設立した今年で10年になる若い会社です。朝日新聞の朝夕刊、日刊スポーツを 中心にその他の協力新聞を印刷しています。朝日新聞の中核工場の一つであり、全国でも最 大規模の設備の丁場です。

TMKの社員の大半が、商業印刷や他品種の職場からの異動者で新聞印刷の経験は少なく、 苦労する部分も多いです。ただ、違った品種、設備の経験から新しい視点で様々な取組を行 えている工場とも言えます。印刷、管制、技術といった職場の枠を超えて活動している改善

プロジェクトチームを有しており、それが工場の中心の活動になっています。

さて、8月27日に「なにわ淀川花火大会」が3年ぶりに開催されました。打ち上げ数は非公開 ですが、関西でも最大規模の花火大会です。今年のテーマはRe:start。今年限りですが日本 の5つの煙火店が得意な演出をした花火を披露するという特別な会でした。打ち上げ場所は淀 川の中央、工場からは直線で約900m位の場所になります。 花火を見る場所としてTMKは距離、

高さ含めて最上の場所です。

> 3年前までは従業員の家族を招待し、食堂を貸切りにして花火鑑賞会を行っていました。た だ、今年はコロナ蔓延という事もあり、家族を集めての鑑賞会までは行えず、出勤者のみ什

事の合間での鑑賞となりました。

> 今回、私は夜勤だったこともあり、花火を少しの時間ですが、鑑賞する事ができました。 来年こそは、家族や友人を呼んでの鑑賞会が開ける事を祈っています。

【新入会のことば】

株式会社フジオー産業

(平本 敬三)

この度、日本新聞製作技術懇話会への入会 をご承認頂き誠にありがとうございました。 入会にあたり、清水会長を初めとされます同 会の関係者の皆様、事務局の皆様、又同会に ご推薦賜りました清水製作株式会社、並びに DICグラフィックス株式会社にはこの場をお 借りして改めて御礼申し上げます。弊社は、 1972年新聞印刷用資材の殆どの原料が再利用 の時代、刷版は現場で再生産されていた鉛版 時代に事業を立ち上げその後50年、新聞印刷 現場で発生する産業廃棄物の収集運搬等の再 生事業から、ここ20年は中古新聞輪転機と周 辺機器の解体撤去とその再生・再販に尽力し て参りました。「廃棄物を有価物に |のモット ーを今後は、一層大きく展開し会員社皆様と 共にCO2削減への工夫と輪転周辺機器リサイ クルへの方策を模索し新聞印刷業界の環境負 荷低減に貢献して参りたいと思います。これ までにIANPSには何度か出展させて頂きま したが今後は正規加盟社として参加したいと 思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜 りたく宜しくお願い申し上げます。

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (38社) 2022年9月現在

社 名	〒番号	所 在 地
株イワタ		東京都千代田区岩本町3-2-9
(株)インテック	135-0061	東京都江東区豊洲2-21 豊洲ベイサイドクロスタワー
NECプラットフォームズ(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131
(株)金陽社		東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1階
コダック(同)	140-0002	 東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル
コニカミノルタジャパン(株)	105-0023	 東京都港区芝浦1-1-1浜松町ビルディング
サカタインクス㈱	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
(株)システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17
清水製作㈱	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8
田中電気㈱	101-0021	東京都千代田区外神田1-16-9
椿本興業㈱	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階
(株)椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
㈱東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6階
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階
東洋インキグラフィックス(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1
東和電気工業㈱	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6階
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2
日本電気㈱	211-8686	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8
日本ボールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階
パナソニックコネクト(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地
(株)日立産業制御ソリューションズ	110-0006	東京都台東区秋葉原6-1
(株)フジオー産業	115-0043	東京都北区神谷2-6-8
富士通㈱	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan傑	105-7123	東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フイルム西麻布ビル
富士薬品工業㈱	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10
HOUSEI(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル9階
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1
三菱製紙㈱	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア
ミューラー・マルティニジャパン(株)	174-0042	東京都板橋区東坂下2-5-14
明和ゴム工業㈱	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20